ナナカマド

Junior Chamber International Japan
ASAHIKAWA

一般社団法人
旭川青年会議所
令和4年度広報誌

令和4年11月15日発行

第32回 烈夏七夕まつり

PICKUP

「烈夏七夕まつり対談」

烈夏七夕まつり 代表 山田 隼人 × 旭川市長 今津 寛介

INDEX

烈夏七夕まつり
実行委員長インタビュー
例会／事業の紹介
メンバーインタビュー
旭川青年会議所について
活動の軌跡
私たちと一緒に
活動しませんか？

2022年度スローガン
昇華心

JCI Asahikawa
Junior Chamber International Asahikawa
一般社団法人 旭川青年会議所

2022

3年ぶりの夏祭り～創始の思いに立ち返って

第32回
烈夏七夕まつり
対談

旭川市長
今津 寛介 × 山田 隼人
烈夏七夕まつり 代表

今年の祭りを振り返って

山田：私が1番感じたのは、祭りとは魔法だと。参加してるだけで、笑顔になり、幸せな気持ちにさせてくれるのが祭りという手法だと思いました。

今津：この2年間、市民の方もずっと我慢していたと思います。待ちに待った3年ぶりの開催ができて、本当に嬉しかった。私自身も青年会議所時代には夏まつりと冬まつり担当の室長だったこともあり、非常に強い思い入れがあります。烈夏七夕祭り、さんろく祭り、御輿、よさこい…それぞれの祭りが躍動して、久しぶりに元気な旭川が戻ってきたと感じました。

山田：とにかく100年続く祭りを途絶えさせるわけにはいかないというのが一番の思いでした。コロナ禍で、経済も疲弊して辛かったんですけど、開催したことで忘れかけていたノウハウを思い出し、最初に祭りを作った創始の思いを振り返ることができました。

今津：お祭りは地域の元気そのもの。郷土愛を育んだり、久しぶりの再会を楽しんだり。旭川を愛するみんなの気持ちが1つになる、それが旭川夏まつりです。

旭 川 市 長
旭川青年会議所　シニアクラブ
今津　寛介(43歳)

山田：祭りは、やはり歴史と共に歩むものですね。

祭りの未来を語る

今津：コロナ前は毎年の開催が当たり前でした。開催できなくなって初めて、それが本当に幸せなことだったと改めて気づかされた。お祭りを通じて、いろんな人との交流が生まれ、友情が深まっていく。お祭りは地域に元気をもたらすものですし、経済的な効果も大きい。コロナ禍で開催に対して心配なさるご意見もありましたが、withコロナにあっては社会経済活動を進めていかなければいけません。単にコロナ前に戻るのではなく、さらに新しいお祭りの形、言わばコロナ前とコロナ後を組み合わせたハイブリッドのお祭りといった、新しいヒントが生まれたと思います。

烈夏七夕まつり　代 表
旭川青年会議所第72代理事長
山田　隼人(40歳)

山田：今、市長がおっしゃったハイブリッドという考えは、やはりこれからの視点になって

いくと思います。ハイブリッドの祭りって、対面と非対面のハイブリッドではないかと私は思うんです。祭りは人を集めて賑わいを創出するので、デジタル革新が進んだ先のハイブリットをどんどんやっていければいいと思います。

市長とJC

山田：私と市長との出会いは、私が新会員で仮配属になった「未来の力支援委員会」で、冬まつりと青少年育成事業を受け持ちました。

今津：私は卒業年度、後輩たちに私なりのJCスピリットを残したいとの思いから委員長に立候補し冬まつりの担当委員長になりました。その時の新会員だった山田さんが理事長を務めて頂いて、委員長をやってよかったと改めて感じています。あの時は冬まつりで釣り堀をやりましたね。気温が低く魚がほとんど動かず、釣り堀なのに釣れない（笑）でも、子供たちは大喜びでしたね。また、大規模なスノーボードのジャンプ台を作りプロボーダーを呼び多くの市民で賑わいました。観光客も飛び入りでウィンタースポーツを楽しみました。後輩たちに伝えたかったのは若人らしい大胆で柔軟な発想で、枠に留まらない活動をしてほしいとの思いでした。また、今では当たり前になっている広報誌「ナナカマド」ですが、2011年担当室長の時に鈴木慎吾委員長と、市民の方々に我々の活動を分かりやすく伝えていくため、マンネリ化していた広報を変えていこうと新たに発刊しました。生みの苦しみがありましたが、鈴木委員長が見事乗り越えました。今も受け継がれていてとても嬉しく思います。

まちづくりとJC

山田：実際にまちの仕組みを紐解いていくと、旭川の行政にはすでに様々な仕組みがあることに私たちは気づいています。ただ、その仕組みをいかに市民へ喚起するか。市民が行動に移せる舞台を僕らが作っていきたいと考えています。

今津：私が09年石田慶嗣理事長のもと副理事長を務めたときに、市議会議員の上村さんが担当室の中心市街地活性化担当委員長でした。上村さんは市議会議員としても買物公園の問題に取り組んでいましたが、当時多くの市民から買物公園を利用する手続きが煩雑で分かりづらいとの声に応えて「買物公園利用手続きマニュアル」を作成しました。今でもインターネットで閲覧することが可能です。どこに、どのように、なにを申請すればよいのか、非常にわかりやすく体系化されていますのでぜひご覧ください。買物公園イベント利用手続きマニュアル(asahikawa-jc.or.jp)マニュアル策定後現在まで多くの市民の方に使用いただいて、市民が躍動するフィールドが広がりました。これは模範となる好例だと思います。

山田：私たちも、市長、そして市民と連携をとって、まちづくりに寄与したいという強い思いがあります。

今津：やはりJCが、旭川の若い人を巻き込んでほしいですね。中心市街地や買物公園をどうするかあるいは子供たちの教育等積極的に関わってほしい。市に対する政策提言もお待ちしています。若い力でぜひ旭川を変える先頭に立ってほしいと思います。

烈夏七夕まつり 実行委員長　遠山　優太

第32回烈夏七夕まつりは、昨今の感染症の影響により実に3年振りの開催となりました。この数年は、ディスタンスという距離が様々な場面で求められ、人の距離は人の繋がりが希薄にし活気や賑わいを失くしました。地域社会において人々が手を取り合うことは最も大切なことの一つであり、夏のたったひと時のお祭りは様々な場面でそれらを形にしてくれます。未だ完全復興とはいきませんが、この度は多くの皆様が一緒にお祭りを楽しめたことや感動を共有できたことは、今後のまつり発展の大きな礎になるのではないでしょうか。そして、来年も社会がより明るくなり旭川の熱い夏を彩るまつりが開催されること信じています。どうぞ来年も第33回烈夏七夕まつりを宜しくお願い致します。

一般社団法人旭川青年会議所　例会・事業の紹介

2月第一例会　「市長と考える我がまち旭川」(旭川まちの支援委員会)

市民と行政の架け橋となるべく、旭川市がどのようなまちづくりを考えているかをトップリーダーである今津市長を交えて意見交換を行いました。新庁舎建設に伴い使用されなくなる議会を使用し厳粛な雰囲気の中、メンバーもとても刺激がある例会となりました。

2月第二例会　「冬まつり支援事業 Tokiwa Town 2022」(まつり事務局)

大きな笑い声と笑顔が溢れたバブルサッカー、夜には参加いただいた方のメッセージが書かれた輝くランタンが夜の空に高く舞い上がり幻想的な空間とりました。参加者の皆様、お子様にも大好評でした。

4月第一例会　「The first step to the future 確かな一歩へ」(未来の力支援委員会)

旭川市教育委員会へ作成した動画を授与させていただきました。この動画は中学生２年生を対象に今後の進路選択に主体性を持って欲しいという想いから副教材としての認定を受けたものです。市内の中学校にも配布をさせていただきました。

4月第二例会　「うまい(米)Welcome(米)!ドライブスルーde旭川米フェスタ」(旭川まちの支援委員会)

昨今旭川米の消費が低迷していることから改めてその美味しさを感じていただくと共に地産地消につなげたいという想いから企画致しました。ドライブスルー形式のイベントであり、一時は渋滞するほど多くのお客様に来場いただき大盛況となりました。

一般社団法人旭川青年会議所　例会・事業の紹介

6月第一例会　「心ひとつに!まちづくりの一歩と旭川JCの絆!」(三役)

当会議所メンバーで北彩都ガーデンのゴミ拾いを行い、その後ボウリング大会と親睦会を開催しました。
地域へのボランティア活動や親睦事業を通じて、メンバー同士の絆がより深まる一日となりました。

7月第二例会　「まちづくりだヨ!全員集合っ!」(旭川まちの支援委員会)

身近なまちづくりをしていこうとの想いから旭橋、農作試験場、クリスタルパークの3会場において清掃活動を行いました。
一般の市民の皆様にも参加いただき、各所見違えるほど綺麗になり、指定文化財の奉仕において旭川市から感謝状もいただきました。

10月第三例会　親子deまちづくりDay in 緑橋通(旭川まちの支援委員会)

旭川市緑橋通の10か所に旭川市と共催で桜の植樹を行いました。小学生以下のお子様が居るご家庭30組と山田植木様、また旭川市副市長にも来ていただき総勢約140名で実施しました。子供の成長と桜の木の成長と共に旭川市の発展を考え、まちづくりに関心をもっていただけたと思います。

旭川市市制施行100年記念事業　100フェス　支援

10月16日(日)、「旭川市市制施行100年記念」が開催されました。球場では初の音楽イベントが開催され、周辺では旭川の歴史や食、産業を体験できるイベントを開き、JCではVR体験、和太鼓体験などを設えました。会場は市民の熱気で大盛り上がりとなりました。

一般社団法人　旭川青年会議所　例会・事業の紹介

1月第一例会
「新年定時総会・新年交礼会・卒業生を送る夕べ」(総務委員会)

2022年度旭川青年会議所のスローガン「昇華一心」を掲げ、第72代理事長山田隼人君からメンバーへ今年度の運動に向けた力強い挨拶がありました。新年交礼会では旭川市長を始めとする多くの来賓の方々に出席を賜り、盛大に2022年度のスタートを切る事ができました。また、JCI旭川のメンバーとして卒業された先輩の方々を華やかな門出で送り出しました。

3月第一例会
「新会員仮配属式」(人財委員会)

本年度当会議所に入会した年齢も職業もバラバラの新会員が力を合わせ結束力を発表します。今年も会員一同笑顔に満ちた素晴らしい発表でした。新会員はこの日から各員会へ仮配属され委員会での運動がスタートします。

5月第一例会
「皆が皆リーダー ～持続可能な組織を目指して～」(人財委員会)

JCI旭川メンバーを対象に「リーダーシップ」をテーマに勉強会を行いました。リーダーシップにはどのような種類があるのか、またその職場環境や時々での使い分け、自分の感情を把握しマネジメントに活かすEQリーダーシップという考え方について皆で学びました。各メンバーが職場に持ち帰り、考えてみる。とても実践的な例会内容となりました。

7月第一例会
「臨時総会」(総務委員会)

2023年度一般社団法人旭川青年会議所第73代理事長予定者が清水健史君に決定しました。清水健史君よりメンバーへ向け想いの籠った力強い挨拶があり、大きな拍手とともに全会一致で承認されました。次年度も今年度以上にまちづくりに寄与できるよう、我々旭川JCメンバーの新しい第一歩が今まさに始まろうとしています。

7月第三例会(完全WEB開催)
「やりすぎぐらいがちょうどいい」(出向者連絡会議)

講師にJCI帯広の梶原一生君をお招きし第1部では貴重な体験談などをお話を聞かせいただきました。またお聞きした話を元に梶原君、山田理事長、池田議長の3者によるディスカッションが執り行われ、完全WEB形式とはなりましたがしっかりと熱量が感じられ、当会議所メンバー一同多くの刺激を頂いた機会となりました。

9月第一例会
「定時総会」(総務委員会)

清水健史次年度理事長予定者より2023年年度新役員・理事の発表が行われました。また、次年度スローガン“あなたとまちをWin-Winに。”が発表され、次年度へ向けて皆、改めて身の引き締まる思い、そして次年度に向けてそれぞれの希望を馳せ、まさに清水丸出港へ向けてのスタートを切りました。

10月第一例会
「新会員例会」(人財委員会)

新会員が互いの知恵を集結し、一から例会を作り上げる新会員例会ですが、今年度のテーマはストレスを取り上げました。ストレスは捉え方によっては良くなり、または悪くもなってしまいます。ポジティブシンキングのコツを実践しながら青年会議所メンバーがストレスを良い方向へと受け止められるようなコツを伝授していただきました！この例会の作りこみを経て新会員同士は苦労を共にしながら友情や結束力を高めることが出来た貴重な時間(財産)となりました。

JCI旭川メンバー　インタビュー

JCI旭川入会から、これまでを振り返って

蝦名　安信

旭川市議会議員
2019年度 入会

JCでのたくさんの出会いが私にとって大きな財産となりました。野村委員長のもとで結束力を高めた猪ベーション19の同期、谷津塾長に巻き込んでもらった道北エリアアカデミーの輪、出向先で協力したエリアや全道の仲間、仮配属でお世話になったまつり事務局の皆様、副委員長たちと苦楽をともにしながら、JCの良さを教えてくれた旭川創生委員会、政治経済委員長を全うできるよう後押ししてくれた円卓の仲間や副委員長とメンバーたち、4度の例会を行った旭川まちの支援委員会等、ここには表しきれませんが、すべての出会いに心より感謝をしております。今後は現役の皆様を微力ながら支えてまいります。困ったときはいつでもご相談くださいませ。

JCI旭川入会から、これまでを振り返って

能澤　悠多

株式会社
能澤自動車
2016年度 入会

旭川青年会議所に入会して7年目になり、気づけば卒業の年を迎えました。入会のきっかけは先輩からの軽い誘いがあり抵抗はありましたがなんとなく入会することになりました。なんとなく青年会議所に入会したことにより、人としてたくさんの学びの場があり成長させていただきました。また、たくさんの仲間に出会うことができました。同じ方向を向き苦労を重ね助け合い、分かち合った仲間は一生の友となりました。青年経済人としてまちづくりの牽引役となり旭川市発展のため、運動、活動をしてきました。まちは簡単に変わりませんが、旭川市民や、未来を担う青少年のために、持続可能なまちづくりをしていかなければならないと感じております。
皆さんには、1.青年会議所運動活動を楽しんで、2.仲間と一緒にいる時間を作って、3.仲間を思いやる気持ちをもって、4.仲間が困っていたら助けて、5.自分が困った時は仲間が助けてくれる　青年会議所は最高の仲間ができる機会の提供をしてくれる団体です。

JC活動で感じていること、良かったこと

吉田　有希

吉田鍼灸整骨院
2021年度 入会

旭川青年会議所に入会して三年目となります。入会のきっかけは、「同世代の仲間を作ってみたら?」と知人に後押ししていただき入会しました。最初は不安でしたが勇気を出して参加することで、沢山の仲間と出会うことができ、仲間と苦労を共にする時間を過ごすことで、今まで狭い目線で過ごしてきた考えを、広い目線で考えるようになり、大きな財産となりました。入会しただけではできなく、参加したからこそ得られた財産です。その経験を大事に更なる成長をしたいと思います。また、旭川青年会議所でまちづくりとなるきっかけを見ることで、今までよりもさらに旭川へ興味を持つことができました。ぜひ一緒に活動しましょう。

入会して1年経った感想

飯豊　育民

株式会社
Social Bridge
HOLDINGS
2022年度 入会

様々ある人生の転換期がいつか?と問われると、「今」であると言えます。JC入会を機に、本来であれば知りえなかったであろう多くの仲間と出会い、強みを知り、また弱さも知る事ができ、多くの時間を共にしてきました。そんな仲間と会うことは30代半ばという年齢を考えると、普通の人生ではそうそう経験できることではないでしょう。JCは成長できると言われますが、これには条件があると思います。それは、主体的に参加することです。私自身たった1年間で、主体的に参加することで多くの学びと仲間を得ました。今後も仲間と膝を突き合わせて本音でぶつかり、研鑽に励み、共に成長をしたいと思える、そんな組織であると感じた1年でした。

出向したことで得られたこと、感想

池田　圭治

株式会社
キュービック不動産
2018年度 入会

北海道地区協議会の役員として北海道強靭化委員会の委員長という担いをいただきました。「CREATIVE　DESIGN～誰もがあこがれる北海道の創造～」のもと、5月には片山さつき参議院議員を招聘しフォーラムを実施。地区大会では4市町村の首長に会いドキュメンタリーを制作しました。苦労もありましたが、出向先での成長や一生の仲間など、多くの得るものがありました。ここではすべて書ききれませんが、出向という外の景色をぜひ見てほしい、心からそう願います。一歩踏み出すには不安と恐れがあります。ただ踏み出した先には、なにには代えがたい素晴らしい世界がある。JCは「やりすぎぐらいがちょうどいい」出向させていただいとことに理事長はじめメンバーに感謝いたします。

JC活動を通して得られること、これまでを振り返った感想

野村　晋也

極東警備保障
株式会社
2017年度 入会

JCに入会をして6年目となる本年度は専務理事として1年間活動をさせていただきました。はじめて専務理事という大役を仰せつかるにあたり、戸惑いもありましたが、先輩諸兄の皆様、メンバーの皆様に支えられ、山田理事長が掲げる「昇華一心」のスローガンのもとで前進してまいりました。JCでは会議・事業の運営、まちづくり運動を通じてリーダーとしての研鑽を積むことができます。そしてJCには様々な役職を経験できるチャンスがあります。40歳までという限られた時間の中で、どんなことにも逃げずに挑戦する気持ちが大切です。様々な役職での経験を通じて沢山の苦労や喜びを仲間と共に分かち合い、多くの時間を共にするからこそ、共感し、互いに相手のことを思いやるようになり、友情が育まれ真の仲間ができます。これからも自分を成長させてくれたJC、志を同じうする仲間に感謝の気持ちを持ってJC運動に邁進していきたいと思います。

旭川青年会議所について

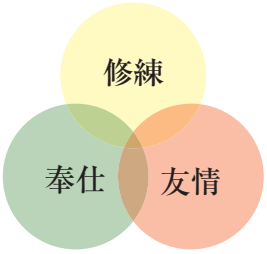
一般社団法人旭川青年会議所 2022年度 活動の軌跡

1月第一例会　「新年定時総会・新年交礼会・卒業生を送る夕べ」(総務委員会)
2月第一例会　「市長と考える我がまち旭川」(旭川まちの支援委員会)
2月第二例会　「冬まつり支援事業Tokiwa Town 2022」(まつり事務局)
3月第一例会　「新会員仮配属式」(人財委員会)
4月第一例会　「The first step to the future 確かな一歩へ」(未来の力支援委員会)
4月第二例会　「うまい(米)!Welcome(米)! ドライブスルーde旭川米フェスタ」(旭川まちの支援委員会)
5月第一例会　「皆が皆リーダー ～持続可能な組織を目指して～」(人財委員会)
6月第一例会　「心ひとつに!まちづくりの一歩と旭川JCの絆!」(三役)
7月第一例会　「臨時総会」(総務委員会)
7月第二例会　「まちづくりだヨ!全員集合っ!」(旭川まちの支援委員会)
7月第三例会　「やりすぎぐらいがちょうどいい」(出向者連絡会議)
8月第一例会　「烈夏七夕まつり」(まつり事務局)
9月第一例会　「定時総会」(総務委員会)
10月第一例会　「新会員例会」(人財委員会)
10月第三例会　「親子deまちづくりDay in 緑橋通」(旭川まちの支援委員会)
11月第一例会　「創立72周年記念式典・祝賀会」(総務委員会)
11月第二例会　「卒業生例会」(卒業生)
12月第一例会　「意気込み例会」(三役)
12月第二例会　「クリスマス例会」(副委員長会)

私たちと一緒に活動しませんか?

旭川青年会議所は会員を募集しております。

JCI Asahikawa
Junior Chamber International Asahikawa
一般社団法人 旭川青年会議所



JCは大きな可能性に向けての自己の成長と発展の場です。

他では得られない信頼関係と真の友情を育みながら、
私たちのまち旭川の未来をつくりあげて行きませんか?

青年会議所「Junior Chamber International」とは

国籍、人種、性別、職業、宗教の区別なく
20歳(JCI旭川では25歳)から40歳までの
志の高い青年経済人によって構成されています。
「修練」「奉仕」「友情」という三信条を掲げ
率先して行動する仲間たちで運動しています。

きっとあなたの将来に大きな可能性を見出してくれます。

2022年度スローガン 昇華一心

山田理事長
清水次年度理事長
からの
メッセージ配信中!!

あなたとまちをWin-Winに。

広報誌ナナカマドの由来

1964年、旭川青年会議所は、緑橋通りの緑化運動を行い、ナナカマドを植樹しました。ナナカマドの木は、現在ではイルミネーションで美しく飾られ、緑橋通りの象徴となっていますが植樹が契機となり、1976年ナナカマドが「旭川の木」と認定されました。以上のことからナナカマドは旭川青年会議所の歴史を作った木でもあり、広報誌の名前も「ナナカマド」となりました。

〈お問い合せ先〉平日10:00~17:00まで
TEL0166-22-9815
JCI 旭川　検索
https://www.asahikawa-jc.or.jp

公式WEBサイト　公式facebook　公式Instagram
※過去の広報誌はWEBサイトより

発行者／一般社団法人　旭川青年会議所　〒070-0031　北海道旭川市常磐通1丁目　道北経済センタービル5階　TEL.0166-25-9815
発行人／第72代理事長　山田　隼人　編集／広報渉外委員会　制作／株式会社ノヴェロ旭川支社　発行日／令和4年11月15日